綾瀬市立綾瀬小学校

研究テーマ：「自分で考え行動できる子の育成」

～地域のひと・もの・ことと関わる単元づくり～

１　実践の目的

学習指導要領では、今までも言われてきた「生きる力」をさらに具体化し、各教科等の目標や学習内容を３つの柱に再整理し、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」という３つの資質・能力の育成を掲げた。そしてその３つの力をつけるために必要なこととして①主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの授業改善と②各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現という２つが充実することが大切だとも述べられている。

綾瀬小学校の児童の実態として、話を聞く力に課題があるという意見がある。また、自分で考えて行動する力も継続して育てていきたいという教職員の思いも強い。人の話を聞くことができれば、人間関係も良くなり、人を思いやる心も育っていくのではないかと考えられる。目的を達成するためには、今後も話す、聞くといった基礎・基本の定着を図りながら「思考力・判断力・表現力」を高めていく必要性がある。「思考力・判断力・表現力」をつけるためには①の主体的・対話的で深い学びを充実させることが重要となる。新学習指導要領でも、「思考力・判断力・表現力等」は「深い学び」の中で身につくものだとされている。ここでいう「深い学び」とは、各教科等で身につけた資質・能力を「活用・発揮」することで実現できるものだとされている。また、そういった活動を繰り返し行い課題を自分で解決していくことで育まれていく力だとも述べられている。つまり「深い学び」を達成させるためには学びの過程を充実させていく必要がある。そのために、総合的な学習の時間や生活科で、地域と関わりながら活動をすることが有効だと考えられる。

２　実践の内容

生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域のひと・もの・ことと関わりながら児童が主体的に学習に取り組む単元づくりを行った。

カリキュラム・マネジメントでは、各学年が目指す児童像を基に、単元構想表となる「学びのデザイン」を作成した。「学びのデザイン」には、他教科との関連や育てたい資質・能力が記載されており、年間を通したカリキュラム・マネジメントの土台となった。研究授業だけでなく、単元全体を見通して計画を立てることが、資質・能力をより意識することにつながった。

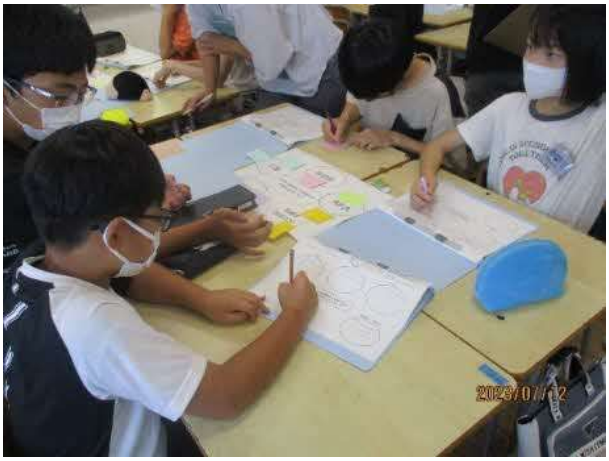
授業改善では、全学年が授業を公開した。

今年度は、低・中・高・ひまわりのブロックに分かれてブロック会議を持った。また、各学年が事前授業・研究授業・事後授業を行い、その都度振り返りを行った。それぞれの学年が地域コーディネーターと協力して地域のひと・もの・ことと関わる授業づくりに取り組んだ。

地域教材や外部講師は、次年度以降にも引き継ぐことができるように、一覧表を作成している。

また、学習した内容の振り返りを書かせることを意識して指導を進めた。振り返りのワークシートを各学年が実態に応じて用意して、授業の中で書く時間をきちんと確保するようにした。

体験したことを基に、主体的に話し合う姿が見られた。



３　実践の成果

今年度から研究副主題を「地域のひと・もの・ことと関わる単元づくり」に変更した。研究仮説にもあるように「学ぶ必然性をもたせる工夫」「やりたいと思える仕掛け」を作ることで子どもの「学びたい」という意欲につながった。また、地域コーディネーターにも地域との連絡に携わっていただいた。おかげで充実した学びを展開することができた。

研究公開授業を全学年で行うことができた。昨年度まで取り組んでいなかった特別支援学級の授業を公開したことで子ども達の学びを共有できる素晴らしい時間となった。

事前授業・研究授業・事後授業の流れにしたことで、その都度授業がどうすればよくなるのかを話し合う場を持てた。反省をすぐに実践に　生かせるのもよかった。

４　今後の展開

カリキュラム・マネジメントへの意識は高まっているので、今後もカリキュラム・マネジメントと授業改善の両輪を意識した研究を続けていきたい。

地域コーディネーターを活用してできた地域とのつながりを継続して単元づくりを行っていきたい。また、新たな地域教材を開拓して子どもたちの学習活動の場を広げたい。

教師の個を見取る力の醸成に関わる校内研究を増やし、学校全体が同じ方向に向かって研究を進められるようにしたい。